

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 愛の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県始良郡湧水町
記入者名 (管理者)	永田 すみ子
記入日	平成 19年 10月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3つの理念を基に、職員がその理念に基づき、利用者へのサービスに取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3つの理念を基に、職員がその理念に基づき、利用者へのサービスに取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、利用者に対しては、入居時その理念について話をしたり、契約時も契約書の表紙に理念を記している。	○ 地域の方々にも理念の浸透が図れるよう、広報誌の発行や、運営推進会議を通じて浸透が図れるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件状近隣等の交流が難しい。それでも隣接する特養の利用者との交流やディサービスの利用者が気軽にグループホームに来られる等の状況はある。	○ 現在は、小学校を中心に学校行事への参加や、年に1回の校区の運動会への参加は行われている。今後は防災等の観点からも、地域との交流が図れるよう地域交流などにも取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の会合等への参加や、地域行事への参加も利用者の状態に応じて積極的な参加を行っている。地域が学校行事を中心に活動している事が多く、学校行事への参加などの支援を行っている。	○ 今後、地域の清掃活動などへの参加に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	状況では、グループホーム独自の地域貢献は行われていないが、在宅介護支援センターを中心に介護教室等が行われている。	○	今後、グループホーム独自で地域に貢献できる事があれば、積極的な参加やその取り組みについて、検討して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれが、評価の意義について理解をし、その評価に基づいた施設運営を可能な範囲で行っている。		昨年の評価に対する改善は図られていない部分もあるが、今後の評価についても、具体的な内容で、改善に取り組んで行きたい。ただし、改善といっても、施設の立地条件や、地域の環境、利用やの状態、状況に応じて改善に時間を要する事もあり、そのあたりも含め管理者を含め改善策を検討しながら取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から、地域運営推進会議の設置、運営が求められていたが、今年度は2回の実施に留まった。地域運営推進会議を実施したが職員への周知徹底や、会議内容の報告を行っていなかった。	○	運営推進会議の内容、会議録等職員や家族にもその内容を公表し、施設サービスの改善や、市町村担当者との連携が図れるようにして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村関係者の施設への出入りは少ない。	○	市町村関係者の立ち入り、指導監査以外にも、市町村関係者に働きかけを行い、地域でのグループホームのあり方など、市町村担当者を巻き込んだサービスの質の向上に努めて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在では権利擁護、成年後見制度等への職員の理解や、学習の機会が少なく、その支援は行われていない。	○	権利擁護、特に成年後見制度についても、学んで行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、その行為自体が介護のプロとしての意識の中で決してあってはならないことで、虐待行為については、その行為を見過ごす事無く、職員それぞれが職員を監視する目を持つことで、防止を図って行く。	○	虐待に関わらず、言葉づかいについても介護の仕方についても間違っていたり、おかしいと気づいた時は、それぞれが声を掛け、注意ができる職員間の雰囲気作り、職員一人が技術や知識を高めるのではなく、職員全員がその技術、知識を深められるように全員で取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、その内容を家族に説明し、各条ごとに質問や疑問がないか確認を行い、説明終了後にも必ず質問や意見がないか確認し、契約を交わした後も、不安や疑問が生じた場合はいつでも申し出て頂くよう話しはしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の日常での生活の様子を見守りながら、それぞれの意見や不満、苦情などについてそのつど対応している。</p>	<p>○</p> <p>今後は、些細な内容についても、利用者からの意見や相談についても記録に残したり、職員間でご家族や利用者の意見を聞き、その内容について吟味できる機会を設けてサービスの向上を図っていききたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>現在は、利用者の生活の様子を面会時に話をしたいしている。</p>	<p>○</p> <p>今後は写真等の送付や日常の様子など記録したものをご家族に送付、または閲覧して頂けるよう個々人の状態を報告できるようにしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情解決の流れや、意見場所の設置を行い、利用者は基より、ご家族などからの意見を求めたりしている。</p>	<p>今後は詳細な内容についても、家族からの意見や相談についても記録に残したり、職員間でご家族や利用者の意見を聞き、その内容について吟味できる機会を設けてサービスの向上を図っていききたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員の話に耳を傾け、利用者の状態についての報告や、その処遇についての助言を頂いたり、運営に関しても職員の意見を聞いている。</p>	<p>○</p> <p>職員会議等の開催や、議事録の作成また、会議への出席を求めるなど今後も職員全体で施設の運営、改善、サービスの質の向上が図れるようにしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の面会に応じた勤務状態の変更や、病院受診など、利用者へのサービスの提供が損なわれないよう随時対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修への参加を職員へ求め、職員それぞれが知識や技術を深められるよう対応がなされている。又、施設内研修や関係機関の勉強会等への参加もなされている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者については、電話等での情報交換を行う程度である。</p>	<p>○ 今後は、同地域、同事業所との交流が図れ、随時協力・支援が求められるように交流の機会を設けていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特に実施されてはいないが、職員の意見には耳を傾けている。</p>	<p>○ 職員同士の食事会を開くなど職場内でのストレスが発散できる機会を設けていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>できている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>できている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>できている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態に応じては、ご家族に面会を依頼したり、ご家族との今後の利用者への対応を話し合ったり、利用者が馴染むことができるよう支援を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶ気持ちを持ちながら、日中、夜間を通じて利用者の状態把握に努め、職員間での情報の共有、生活の場での利用者との関係が介助者、利用者ではなく共に生活者である意識を持ちながらサービスの提供に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者へのサービス提供での困難な状況や、日常での生活の様子を話すことで、職員のみでの対応が困難な状況において、常にご家族に協力を求めるなどの関係作りに取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で生活していた頃の友人の面会があったりすることもあるが、ほとんどは入所することで馴染みの人との関係についてはその支援が難しい。それでも時々、自宅に連れて戻ったり、入所前の生活の場に出向くなど支援を行っている。	○	家族との連携を図りながら支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯物や活動時の支援、現状では特定の方が声を掛け合ったり、そのあたりは利用者の認知レベルにもよるが、それぞれが支えあい時には喧嘩(口論)になる事もあるが、それぞれの関係を職員が周知し配慮を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	できている。		退所後の様子をご家族に電話等で話しを聞いたりして、今まで築いたご家族との関係をすぐに断ち切らないような対応を心掛けていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できている。現在でも利用者の意向や困っている事など話を聞いて、検討を随時行っているが、その実現については難しいこともあり、できないことについてはそのつど利用者、ご家族に説明をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時バックグラウンド等をご家族に記載して頂き、過去の生活歴やその暮らしの様子、癖や体質など話を聞いたり情報を得るなどしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できている。その日の生活の様子について、記録に残しその人の一日の生活の流れや活動の様子など職員が周知できるよう対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント(ケアチェック表や具体的な利用者の状態を記録し、その内容について職員でカンファレンスを開き、利用者の状態について職員で周知し、その上で介護計画の作成を行っている。また、状態に応じた介護計画の変更、作成を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメント(ケアチェック表や具体的な利用者の状態を記録し、その内容について職員でカンファレンスを開き、利用者の状態について職員で周知し、その上で介護計画の作成を行っている。また、状態に応じた介護計画の変更、作成を行っている。		家族の意見はそれぞれ面会時に話をしたり意見を求めているが、今後は職員、利用者、ご家族にも参加していただき、担当者会議が開催できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に生活の様子を記録、その日の生活の様子を見ながら月の終わりを機に、その月の記録や本人の状態を振り返り、月の利用者の状態をまとめたものを計画の評価として記録している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当該事務所で可能な範囲で対応を行っている。できない部分については、できない理由を利用者、ご家族に説明し了解を得るなど支援している。		できることは、できるで、できないことはできないとはっきりご家族、利用者伝える。曖昧な対応が逆に利用者やご家族に不満を与え、苦情、トラブルにつながることもあるので、かたくなに断るのではなく、利用者、ご家族に可能な部分と不可能な部分での理解が得られるよう対応する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できている。今年度は回数が少なかったものの地域運営推進会議を通じて、民生委員や地域の代表、行政担当者等とグループホームについての現状などを話し合う機会を設けられた。		学校行事への参加や特養でのボランティアの慰問、小学校等の慰問等が行われた。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、在宅介護支援センターに利用者で入所が可能でないか等、入所に関する相談を行っている程度で、地域のケアマネジャーとや、他のサービス利用については、支援していない。	○	今後は、在宅介護支援センターや社会福祉協議会等のケアマネジャー等との交流やサービスにあたっての助言や指導が受けられるようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では包括支援センターとの協働は特に図られていない。	○	地域包括支援センターについては、予防認知症対応型共同生活介護のサービス提供も可能な為、今後利用者の予防給付対象の方が出て来れば、包括支援センターとの情報交換や支援を仰いでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、利用者の状態を主治医に報告、診察が出来るよう毎月1回の受診を支援している。		今後も定期的な受診を支援しながら、医療機関との連携を深め、医師との情報交換を行い、利用者の個々人の状態に応じた支援が出来るよう取り組んで行く。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事務所の代表者が精神科で、認知症については知見の深い医師であり、常に認知症の症状に伴い、状態の相談や受診が可能な状況にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接する特別養護老人ホームの看護師と利用者の状態について、グループホームの職員だけでは利用者の健康状態の判断が難しい利用者に対して相談、助言が受けられるような体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院については、常時看護師が夜勤として配置していない為、利用者の状態に応じた、十分な治療と入院を医療機関と情報交換を行いながら支援している。早期に退院してもその後、施設での十分な看護は難しい状況である。		入所者が入院した際は、定期的に入院先の医療機関に足を運び、状態について医師や看護師と情報交換を行い対応している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化や終末期にかけての取り組みは、現在での職員体制では十分な看護が受ける事は難しく、終末期におけるサービス提供は行っていない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	項目47・48と同様の回答		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所にあたっては、特別養護老人ホームや医療行為が必要な状態にあり、医療機関に入院するケースはあっても、現状では自宅に戻って生活するケースはない。	○	今後、自宅に戻って生活をするようなケースに至っては、家族との情報交換を支援して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護の観点からも、サービス提供にあたり、十分な配慮を常に心掛け、対応を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	活動への参加や、入浴等、それぞれ利用者に声を掛け、本人の意向を尋ねる等の対応、支援を行っている。	利用者の希望や声掛け指示に対する利用者の反応を、言葉だけでなくその利用者の表情や行動で職員が把握できるような信頼関係を築いていけるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりとしては、利用者に押し付けるようなことは行ってはいない。ただし、生活を共同で行う上でのルールとしてはある程度制限してしまう部分はあっても、必要以上に利用者の生活の時間で職員側による決め事や、職員の業務の設定も特には行ってない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	できている。しかし、利用者の状態によっては、特に散髪などは理髪店での散髪が困難な利用者もおられ、髪染めなど対応できる部分で職員で対応を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、調理については職員が行っている。衛生面や危機管理の問題、包丁や過熱などに伴う事故への十分な配慮と、それに加え利用者間でも、その方が台所に立つことを快く思わない利用者もおられたりするのが現状の課題として存在する。	○ 今後、職員と利用者が共同で調理が行えるように支援して行きたい。ただし、調理に関しては職員が十分な危機管理のもと衛生面などへの配慮も十分に考慮しながら対応して行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	できてはいるが現在、利用者は女性が主体で、タバコや飲酒などされる利用者はいないのが現状である。	タバコについては火の管理、定められた場所での喫煙の支援や飲酒については健康状態、服薬等の兼ね合いもある為、その部分を医師との連携や、職員間で十分な話し合いを行い可能な限り対応して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できている。利用者個人々の排泄パターンや失禁の状態に応じた対応や便秘に伴う下剤の服用コントロール等支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、ほぼ毎日入浴ができるような支援を行い、入浴の順番も変えながら対応している。入浴の時間については、職員の勤務上の都合もある程度は加味しての対応を行っている。これについては、十分な職員配置での対応を行わないと、入浴時の事故に対する対応などできない状況については、運営上の問題もある為である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	バックグラウンド等での情報を職員が把握し、利用者の状態や状況に応じた活動支援や認知症の状態に応じた役割などの支援ができるよう対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は現在の利用者については、一人の方がご自分で所持され管理されている。また、もう一人の方も所持されているが金銭の管理把握は難しい状態である。他の利用者の方々については、家族が管理し、小遣い程度の金額を職員で預かり管理している。		買い物時等、預かり金の中からそれぞれにお金を渡し、支払いなどができるよう、利用者の能力に応じて支援して行きたい。また、ご家族には、利用者が所持される金品、職員に預かりのない物に関しては職員はその管理、責任は一切負わない事を伝えている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季感染症やインフルエンザの流行、感染等への配慮から外出等は必要以上には支援していないが、今後季節的にも暖かくなる為、園外散歩や、買い物、外での活動支援を行なう。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族も外出等の支援は、利用者個人々人には差があっても、ご家族の協力支援で外出等の支援ができている。		職員も、利用者の状態や、その日の気温、外出可能な環境を判断に、利用者が安全に外出できるように支援して行きたい。月行事での遠足やドライブ等の実施を支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の意向や希望に応じてご家族への電話の取次ぎや、ご家族からかかってきた電話の取次ぎを行なっている。手紙のやり取りについては行なっていない。		利用者の状態に応じた対応ができるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	月に1回のご家族の面会や友人、知人、親戚等が気軽に訪問して来られるよう、職員は常に笑顔での対応やお茶の準備等を支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。	○	身体拘束は行なっていないが、今後利用者の状態によっては、やむ終えない状態での拘束を行なわなければならない状況もでてくる可能性もあり、身体拘束廃止委員会への参加や、身体拘束を行なわないで済む処遇についても職員で勉強会に参加していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯のための施錠は行っても、園内での利用者の生活、園内での施錠は行っていない。ただし、利用者によっては、就寝時に居室入り口をご本人が施錠される方もおられるが、職員による一方的な施錠や利用者の行動を制限するための施錠については行っていない。	○	夜間、居室入り口を施錠される利用者については、職員で周知し、防災での避難を必要とする状況に職員が対応できるように訓練等での対応を行っておく必要がある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できている。危険物(刃物類や火気類)については、認知レベル等の状態に応じて、その管理能力、利用者の状態に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる。転倒などの状態についてや、危険と思われる利用者の行動等については、利用者の事故防止対策等話し合いを設けて、その都度、その原因と今後の対応策について職員間で対応している。		一括して、事故防止対策や事故報告等を行っているがヒヤリハット等での対応も職員の気付く目を養うことと、事前の防止対策、危険に対する予知や職員一人ひとりが危険防止の対応ができるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急処置等の訓練は行っておらず、前回の外部評価でも指摘を受けた部分である。	○	一度は消防機関に救命救急の講習を依頼したり、誤嚥時の対応やAEDの使用方法の講習や、医師による心肺蘇生術の講習を受けたが、定期的な部分では行っておらず今後、活用できる消防機関に講習の依頼や、事業所全体での緊急時の対応についての勉強会などへの参加をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練の実施は、利用者の参加、職員の非難誘導、初期消火、通報訓練を年に2回は実施している。	○	風水害についての訓練も今後、職員で話し合い、避難訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に転倒については、加齢に伴う身体機能の低下は、個人差はあっても低下する傾向にあり、ご家族はその状態を面会時に見て頂いたり電話等での状態報告で対応している。また、介護計画作成時も交付する際は、その危険性については、ご家族に話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェックや日常での利用者の表情、顔色、状態の変化に職員が気付きその都度、対応ができるよう記録したり状態報告など、申し送りで職員との情報共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、薬の内容やその効果についてはある程度把握していても、完全な把握は行っていない。受診時の薬の変更や状態に応じた短期間の薬の増減については、その都度職員には伝えている。	○	薬事説明書などを職員は確認し、利用者が飲んでいる薬について、把握を行うように努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量のチェックや毎日の体操、園外散歩など支援し、便秘について予防はしているが、それぞれ排便がないときは下剤を服用して頂くなどの支援をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施している。義歯を装着されている利用者が多く、週に1回は洗浄剤での義歯の消毒管理を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できている。隣接する特別養護老人ホームと同じメニューで、その献立やカロリーについては栄養士の管理のもとで行われている。水分についても、適度の飲水ができるよう準備などの支援に加え飲水量のチェックを行い、摂取量の把握に努める。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成しその都度、対応を行っている。		今後は、事務所全体での感染症対策委員会などへの参加も行い、感染症に対する知識やその対策についても職員が知識を深められるよう対応していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理については、その用途、材料に応じて適切な管理を行い、調理前の材料の品質をチェックしたり、異常がある場合は使用しないなど、十分な衛生管理と保管に努めている。	○	利用者が外出時にお菓子類を持ってこられたり、面会時に差し入れが行われ、職員が把握できない事もある。外出後、帰苑された際の様子や面会後の差し入れなどの有無を把握するように努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	できている。		観葉植物や装飾品での玄関、建物の家庭的な雰囲気作りに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。居室を見ても、利用者それぞれに同じ作りの居室空間ではあるが、個々人の持ち物や装飾品で部屋の雰囲気も違っている。職員は廊下を緊急時以外は走らないような対応や、利用者が昼寝などの時間に大きな声で話したり、足音を立てないなど配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている。共同生活の場所と個人の居室で過ごす空間、それぞれ日常で利用者がそれぞれの思いや考えで動いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。各入居者の居室には家で使われていた家具などを持って来られている方やご家族の写真を部屋に飾っていたり、植物を置きその人なりの好みに合わせた居心地の良い環境の中で過ごして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	できている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、利用者一人ひとりの身体機能を把握しており、利用者に毎回洗濯物を一緒に干して頂くように声を掛けしたり畳んで頂いてる。それ以外に自分たちで居室の掃除をされたり、布団を畳むなど自分でできる事は、自分で出来ている。中には、菜園を作ったり自分の時間を上手く使って生活される方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	86の同様の回答とそれに付け加え全てをお願いするのではなく職員も一緒に声を掛けながら生活している。(労いの言葉を掛けている)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの方は設置していないが、建物の周りに一部の利用者が畑を作っていたり花壇を作られ、それが出来上がったのを他入所者と一緒に外に出て散歩等を楽しみながら見られ楽しんでおられる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)